

## 事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

## 【事務事業の基本的事項】

事務事業名	地方道路整備臨時交付金事業費(岩瀬北野線)			
担当課係名	都市整備課	都市整備係	作成者	築田 正
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 31
	基本計画	国道や県道、生活道路の整備		
	主要施策	市道の整備		
予算費目	一般会計	8款 土木費	4項 都市計画費	2目 街路事業費
事業期間	平成 16 年度 ~ 平成 19 年度		新規/継続の区分	
性質区分	<input type="checkbox"/> 市民サービス <input checked="" type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	道路整備緊急措置法・道路整備費の財源等の特例に関する法律			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

## 【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	都市計画道路 岩瀬北野線 仙北市角館町岩瀬字下夕野~角館町小館地内 L=1,190m
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	都市の骨格形成と道路交通の円滑化を図るため。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	計画、設計、用地、補償、工事に至る道路整備に係わる一連の業務を実施した。

## 【事務事業の推移】

(単位:千円)

		項目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	道路整備延長	m	196	89	
	成果指標	道路の整備率	%	93	100	
投下コスト	項目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)		1,275,000	210,000	95,000	
	財源内訳	国庫支出金	701,250	115,500	52,250	
		県支出金				
		地方債	457,763	89,775	40,612	
		その他				
	一般財源		115,987	4,725	2,138	
	人件費(B)			14,607	8,232	
	職員数			1.86	1.02	
	職員平均人件費			7,853	8,071	
(A)+(B) 投下コスト			224,607	103,232		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)			1,145,954	1,159,910	
	市民1人当たりのコスト(円)			7,043	3,288	

【事務事業の今までの成果】

H19年度完成

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	現在の都市計画道路の多くは、昭和40年代までに都市計画決定されており、見直しがほとんど行なわれていない、よって近年社会情勢に合わせ見直し作業を行なっている自治体が多い。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	特に角館地区は整備率が上がらないため見直しに対する意見があるが、岩瀬北野線の小館～横町区間に関しては計画の実現化に向けて期待が大きい。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続(実施)	岩瀬北野線の連続性を確保する上で、小館～横町間の整備は必要であると考えたため。
	B 見直しの上で継続(実施)	
	C 大幅な見直しの上で継続(実施)	
	D 休止・廃止(統合を含む)を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容(改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。)

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	都市計画道路(岩瀬北野線)として、角館町下夕野～角館町小館区間で完成し供用開始している。

